

多焦点眼内レンズを使用した白内障手術

多焦点眼内レンズとは

白内障手術で用いられる眼内レンズは、現在は単焦点レンズを使用することが一般的です。しかし単焦点レンズを挿入された眼は、調節力が失われるために遠方視力を重視した度数を選択すると、近くを見るときは老眼鏡が必要になり、近くを裸眼で見えるように度数を選択すると、遠くを見るときにはメガネが必要になります。そこで、少しでも遠くも近くもメガネなしで見たいという要望に対して開発されたのが多焦点眼内レンズです。

多焦点眼内レンズを使用した場合、めがねの必要性が軽減し、術後にめがねが全く不要になる場合もあります。ただし、この効果は全員の方に保証されるわけではありません。また、手術効果は患者様の眼の条件（瞳孔の大きさや乱視など）によって異なり、一部の方では夜間に車のヘッドライトやネオンサインなどがにじんでみづらくなったりする（これらの症状をグレア、ハロ、スターバースト現象といいます）ことがあります。そのほか、単焦点眼内レンズと比較すると、コントラスト感度の低下（見え方の質の微妙な低下）がおきることが報告されています。

白内障手術

多焦点眼内レンズを使用した場合でも、白内障手術自体は、通常の白内障手術と変わりありません。詳細については、「白内障手術に関する補助説明書」を御覧ください。

多焦点眼内レンズの適応

多焦点眼内レンズの使用には、十分な適応検査が必要です。視力に影響をおよぼす眼疾患を合併している場合は、多焦点眼内レンズを挿入してもその効果が発揮できない可能性があります。具体的には緑内障による視野障害、黄斑変性症などの網膜硝子体疾患、角膜混濁がある場合は、適応とならない場合が多くあります。また、眼鏡をかけることが問題ない場合、自費負担をして多焦点眼内レンズを選択しなくても、保険適応の単焦点眼内レンズで十分満足いただけます。

手術費用

多焦点眼内レンズを使用した場合、多焦点眼内レンズと保険適応の単焦点眼内レンズとの差額は全額患者様負担となります。